

第 90 期

中間事業報告書

自 平成14年4月1日
至 平成14年9月30日



エスビー食品株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

平素は格別のご支援ご愛顧を賜わり、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

ここに当社第90期中間期(平成14年4月1日～平成14年9月30日)の営業の概況と決算のご報告を申し上げます。

代表取締役社長

山崎 隆

営業の概況

自 平成14年4月1日
至 平成14年9月30日

1. 営業の状況

当中間期のわが国経済は、デフレ経済が深刻化するなかで個人消費、設備投資ともに停滞が長期化し、加えて米国経済の減速による輸出の鈍化と株価下落による不安感が広がる厳しい状況となりました。

食品業界におきましては、消費低迷と低価格化による激しい販売競争が続き、また、無認可添加物や食品表示の問題など食品企業の信頼性を揺るがす事件が続発しました。食品企業にとりましては、熾烈な企業間競争に勝ち抜くとともに、今まで以上に品質と安全に対する取り組みが強く求められました。

このような状況のもとに当社は、原材料から製品にいたる生産履歴に関する情報を一括管理するためのシステム化に着手するなど、引き続き製品の品質管理・安全対策の強化に努めてまいりました。また、環境対策の一環として、ISO14001の認証取得を進め、平成12年の上田工場に続き、今年8月に東松山工場、9月には宮城工場で取得し、これで自社工場すべてがISO14001の認証を取得いたしました。一方、販売面におきましては、お客様の多様なニーズに対応した新製品を提供するとともに、売場提案やメニュー提案を行うなどきめ細やかな営業活動を展開してまいりました。

この結果、香辛料部門は、お客様にスパイスやハーブをさらに身近なものとしていただくため、食の豊かさの提案を継続してまいりましたことから、洋風スパイスなどが着実に伸長し、売上高は前年同期比3億43百万円増の70億90百万円となりました。

即席部門におきましては、「とろけるカレー」をはじめとする「とろける」シリーズが、ブランドキャンペーンを実施するなどの施策効果もあり、確実にシェアを拡大いたしました。即席市場全体が伸び悩みましたことから、即席部門の売上高は前年同期比5億60百万円減の148億13百万円となりました。

香辛調味料部門は、「本生 生わさび」などの「本生」シリーズをはじめとするチューブ製品が価値ある製品として引き続き高い評価をいただき、また、今後に期待される新製品として、日本の伝統的素材である「わさび」をまったく新しくアレンジした「わさびソース」の発売などもあり、香辛調味料部門の売上高は前年同期比3億45百万円増の114億25百万円となりました。

インスタント食品部門につきましては、ご好評をいただいております生風味パスタソースシリーズがさらに売上とシェアを伸ばしました。また、無菌包装米飯では、幅広いご支持をいただいております「ごはん」とともに新製品の「うなぎまぶしごはん」など簡便性や個食化のニーズにお応えした具材付きのセット米飯も順調に推移いたしました。一方、レトルトカレーにおきましては、BSE問題の発生以来、依然として市場環境は大変厳しい状況が続きました。その結果、インスタント食品部門全体としての売上高は、前年同期比1億20百万円増の163億円となりました。

以上の結果、当中間期の売上高は496億29百万円(前年同期比100.5%)、経常利益は14億89百万円(前年同期比105.1%)、中間利益は6億14百万円(前年同期比101.5%)となりました。

なお、当期の中間配当金につきましては、前期と同様1株につき5円とさせていただきます。

通期の見通しにつきましては、景気のけん引役が見当たらないなか、政府の総合デフレ対策の実施に伴う雇用情勢への影響も懸念されるなど、日本経済の先行きに対する不透明感は強く、引き続き厳しい状況で推移するものと思われま

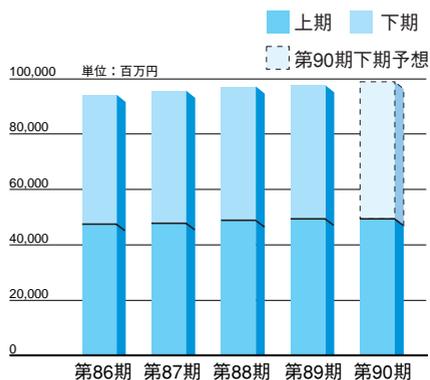
す。食品業界におきましても、雇用や所得の減少などに対する先行き不安心理から、個人消費の回復は当面は見込めず、食品企業を取り巻く経営環境は厳しさが続くものと予想されます。

当社といたしましては、このような情勢のもと、今後とも製品の品質・安全対策に万全を期すとともに、簡便性や健康志向といったお客様の多様なニーズにお応えできる製品開発を行い、きめ細やかな営業活動をさらに進め、企業収益の確保に努めてまいります。

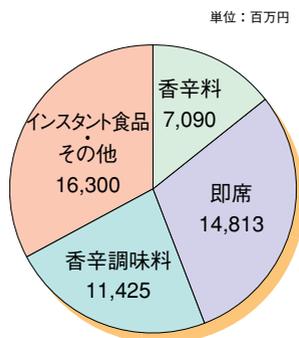
株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. 営業成績および財産の状況の推移

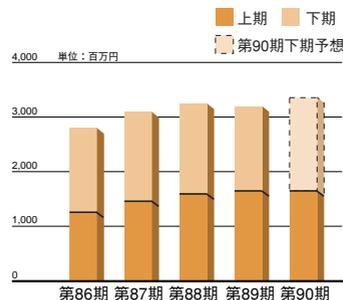
売上高



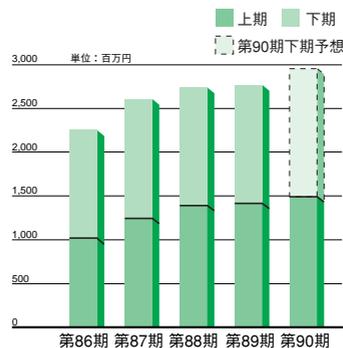
当中間期 売上構成



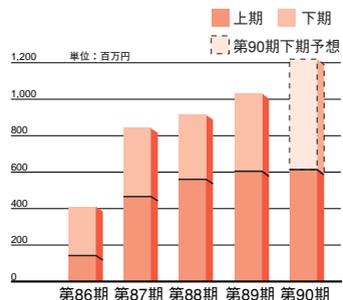
営業利益



経常利益



当期利益



区 分	第86期 (H.10.4～H.11.3)	第87期 (H.11.4～H.12.3)	第88期 (H.12.4～H.13.3)	第89期 (H.13.4～H.14.3)	当中間期 (H.14.4～H.14.9)
売上高	94,400 百万円	95,672 百万円	97,820 百万円	97,815 百万円	49,629 百万円
営業利益	2,800 百万円	3,100 百万円	3,237 百万円	3,189 百万円	1,666 百万円
経常利益	2,240 百万円	2,580 百万円	2,747 百万円	2,761 百万円	1,489 百万円
当期利益	411 百万円	842 百万円	916 百万円	1,031 百万円	614 百万円
1株当たり当期利益	11.78 円	24.16 円	26.28 円	29.59 円	17.62 円
純資産	17,655 百万円	18,144 百万円	18,664 百万円	16,856 百万円	17,466 百万円
総資産	74,710 百万円	75,560 百万円	76,908 百万円	74,861 百万円	75,786 百万円

(注) 1株当たり当期利益は期中平均株式数により算出しております。

なお、第89期及び当中間期においては期中平均株式数は、自己株式数を控除して算出しております。

貸借対照表

資産の部

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 (H.14.9.30)	前中間期末 (H.13.9.30)
流動資産	42,075	42,062
現金及び預金	7,772	6,124
受取手形	6,466	5,713
売掛金	17,650	18,700
有価証券	—	269
自己株式	—	6
たな卸資産	5,744	6,052
前払費用	245	202
繰延税金資産	845	563
短期貸付金	3,395	4,900
その他の金	861	64
貸倒引当金	△908	△535
固定資産	33,694	35,977
有形固定資産	21,113	25,113
建物	7,182	7,671
構築物	783	585
機械及び装置	3,813	3,376
車両及び運搬具	24	21
工具器具及び備品	622	553
土地	8,602	12,745
建設仮勘定	84	158
無形固定資産	301	365
投資等	12,279	10,498
投資有価証券	5,212	5,442
子会社株式	1,063	1,063
出資金	704	751
長期貸付金	2,002	2,001
更生債権	2	1
長期前払費用	11	29
繰延税金資産	877	505
再評価に係る繰延税金資産	1,746	—
差入保証金	309	310
敷金の	183	189
その他の金	315	322
貸倒引当金	△149	△118
繰延資産	16	33
資産合計	75,786	78,073

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

負債の部及び資本の部

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 (H.14.9.30)	前中間期末 (H.13.9.30)
流動負債	43,305	41,810
支払掛手形	9,496	10,207
買掛金	8,300	8,205
短期借入金	14,463	13,019
未払費用	6,844	6,587
未払法人税等	273	338
未償還引当金	967	791
その他	946	938
固定負債	2,012	1,721
社長期借入金	15,014	17,010
退職給付引当金	6,000	6,000
債務保証引当金	5,379	7,949
その他	3,385	2,881
負債合計	193	124
	54	54
負債合計	58,319	58,821
資本	—	1,744
資本金	—	5,779
利益剰余金	—	5,343
利益剰余金	—	436
退職給付引当金	—	11,517
厚生施設積立金	—	919
固定資産圧縮積立金	—	700
別途積立金	—	244
中間未処分利益	—	8,608
(うち中間利益)	—	1,046
評価差額金	—	(605)
資本合計	—	211
資本合計	—	19,252
資本	1,744	—
資本金	5,343	—
利益剰余金	12,585	—
利益剰余金	436	—
退職給付引当金	983	—
厚生施設積立金	700	—
固定資産圧縮積立金	232	—
別途積立金	9,188	—
中間未処分利益	1,046	—
(うち中間利益)	(614)	—
土地再評価差額金	△2,412	—
株式等評価差額金	216	—
自己株式	△11	—
資本合計	17,466	—
負債及び資本合計	75,786	78,073

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

商法施行規則が平成14年4月1日に施行されたことに伴い、当中間期における資本の部については、同規則に基づいて作成しておりますので、前中間期の表記と異なっております。

損益計算書

ご参考 連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目		当中間期 (H.14.4.1~H.14.9.30)	前中間期 (H.13.4.1~H.13.9.30)
経常 損益 の部	営業収益	49,629	49,381
	売上高	49,629	49,381
	営業費用	47,963	47,729
	売上原価	26,503	26,616
	販売費及び一般管理費	21,460	21,113
	営業利益	1,666	1,651
	営業外収益	115	107
	受取利息	15	15
	受取配当金	36	31
	有価証券売却益	—	0
不動産賃貸料	42	45	
その他	20	15	
営業外費用	291	341	
支払利息	229	250	
社債利息	51	80	
その他	11	10	
経常利益	1,489	1,417	
特別 損益 の部	特別利益	7	1
	賞与引当金戻入額	1	—
	その他	5	1
	特別損失	372	309
	固定資産除却損	130	52
	投資有価証券評価損	70	159
	出資金評価損	23	6
	貸倒引当金繰入額	144	79
	役員退職金	—	10
	その他	2	0
税引前中間利益	1,124	1,109	
法人税、住民税及び事業税	974	798	
法人税等調整額	△463	△293	
中間利益	614	605	
前期繰越利益	431	429	
退職給与積立金取崩額	—	10	
中間未処分利益	1,046	1,046	

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

科 目	当中間期末 (H.14.9.30)
流動資産	48,423
現金及び預金	9,702
受取手形及び売掛金	24,745
有価証券	104
たな卸資産	6,174
短期貸付金	6,585
その他	2,352
貸倒引当金	△1,242
固定資産	44,315
有形固定資産	30,835
建物及び構築物	12,149
機械装置及び運搬具	6,314
土地	11,119
その他	1,251
無形固定資産	392
連結調整勘定	77
その他	314
投資その他の資産	13,088
投資有価証券	5,474
その他	8,024
貸倒引当金	△411
繰延資産	16
資産合計	92,755

負債の部

少数株主持分及び資本の部

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 (H.14.9.30)
流動負債	55,893
支払手形及び買掛金	15,674
短期借入金	27,897
未払金	7,190
賞与引当金	1,163
その他	3,967
固定負債	18,643
社債	6,000
長期借入金	8,440
退職給付引当金	4,019
債務保証損失引当金	124
その他	59
負債合計	74,537
少数株主持分	22
資本金	1,744
資本剰余金	5,343
利益剰余金	13,345
土地再評価差額金	△2,412
その他有価証券評価差額金	179
為替換算調整勘定	6
自己株式	△11
資本合計	18,195
負債、少数株主持分及び資本合計	92,755

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

資本の部については、平成14年4月1日施行の改正中間連結財務諸表規則に基づき作成しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (H.14.4.1~H.14.9.30)
売上高	55,120
売上原価	30,297
売上総利益	24,822
販売費及び一般管理費	22,648
販売促進費	12,534
広告宣伝費	2,316
貸倒引当金繰入額	295
賞与引当金繰入額	580
退職給付費用	305
その他	6,616
営業利益	2,174
営業外収益	172
受取利息	41
受取配当金	39
不動産賃貸料	47
その他	43
営業外費用	419
支払利息	409
その他	9
経常利益	1,928
特別利益	13
貸倒引当金戻入額	0
前期固定資産売却益	10
特別損失	3
特別損失	455
固定資産除却損	130
投資有価証券評価損	70
貸出資金評価損	23
貸倒引当金繰入額	219
その他	10
税金等調整前中間純利益	1,486
法人税、住民税及び事業税	1,205
法人税等調整額	△531
少数株主利益	3
中間純利益	808

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (H.14.4.1~H.14.9.30)
(資本剰余金の部)	
資本剰余金期首残高	5,343
資本準備金期首残高	5,343
資本剰余金中間期末残高	5,343
(利益剰余金の部)	
利益剰余金期首残高	12,792
連結剰余金期首残高	12,792
利益剰余金増加高	808
中間純利益	808
利益剰余金減少高	255
配当金	174
役員賞与	80
利益剰余金中間期末残高	13,345

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

平成14年4月1日施行の改正中間連結財務諸表規則に基づき作成しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (H.14.4.1~H.14.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	1,486
減価償却費	1,348
連結調整勘定償却額	2
社債発行費償却額	8
貸倒引当金の増加額	510
賞与引当金の増加額	100
退職給付引当金の増加額	310
受取利息及び受取配当金	△81
支払利息	409
有価証券売却損	0
有形固定資産売却益	△3
有形固定資産売却損	1
有形固定資産除却損	130
投資有価証券評価損	70
出資金評価損	23
売上債権の増加額	△2,688
たな卸資産の減少額	46
前払等の減少額	207
仕入債務の増加額	332
未払金等の増加額	361
役員賞与の支払額	△80
小計	2,497
利息及び配当金の受取額	74
利息の支払額	△403
法人税等の支払額	△1,149
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,019
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△61
定期預金の払戻による収入	103
有価証券の取得による支出	△49
有価証券の売却による収入	48
有形固定資産の取得による支出	△1,668
有形固定資産の売却による収入	4
無形固定資産の取得による支出	△2
投資有価証券の取得による支出	△78
貸付による支出	△194
貸付金の回収による収入	410
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,488
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	12,430
短期借入金返済による支出	△16,947
長期借入れによる収入	2,742
長期借入金返済による支出	△53
自己株式の取得による支出	△2
配当金の支払額	△174
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,004
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10
現金及び現金同等物の減少額	△2,483
現金及び現金同等物の期首残高	12,836
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,352

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

(平成14年9月30日現在)

商号	エスビー食品株式会社
本社所在地	東京都中央区日本橋兜町18番6号
本社事務所所在地	東京都板橋区宮本町38番8号
設立年月日	昭和15年4月5日（創業 大正12年）
資本金	1,744百万円
従業員数	1,064名（男性831名、女性233名）

1. 主要な事業内容

当社は、香辛料グループ（カレー粉、コショウ、ガーリックなど）、即席グループ（ゴールデンカレー、ディナーカレー、とろけるカレー、とろけるシチューなど）、香辛調味料グループ（本生 生わさび、ねりからしなど）、インスタント食品グループ・その他（おでんの素、レトルト食品、無菌包装米飯、麺チップなど）の製造販売を主要業務といたしております。

2. 株主の状況

(1) 会社が発行する株式の総数	88,000,000株
(2) 発行済株式の総数	34,885,585株
(3) 株主数	1,750名
(4) 大株主	

株主名	持株数	持株比率
峯 栄 興 業 (株)	3,045 千株	8.73 %
山 崎 兄 弟 会	3,036	8.70
(株) 東 京 三 菱 銀 行	1,744	5.00
農 林 中 央 金 庫	1,744	5.00
(株) 新 生 銀 行	1,390	3.99
(株) 東 京 都 民 銀 行	1,222	3.50
日 本 生 命 保 険 (相)	904	2.59
セ コ ム 損 害 保 険 (株)	881	2.53
大 日 本 印 刷 (株)	661	1.90
第 一 生 命 保 険 (相)	622	1.78

主な事業所

(平成14年10月1日現在)

名称	所在地	名称	所在地
本 社	東 京 都	中 部 第 2 B U	愛 知 県
エスビープライスセンター (本社事務所)	東 京 都	中 部 第 3 B U	石 川 県
北 海 道 B U	北 海 道	関 西 第 1 B U	大 阪 府
東 北 第 1 B U	岩 手 県	関 西 第 2 B U	大 阪 府
東 北 第 2 B U	宮 城 県	関 西 第 3 B U	大 阪 府
関 東 第 1 B U	埼 玉 県	中 四 国 第 1 B U	香 川 県
関 東 第 2 B U	千 葉 県	中 四 国 第 2 B U	広 島 県
関 東 第 3 B U	東 京 都	九 州 第 1 B U	福 岡 県
関 東 第 4 B U	東 京 都	九 州 第 2 B U	福 岡 県
関 東 第 5 B U	神 奈 川 県	九 州 第 3 B U	鹿 児 島 県
新 潟 B U	新 潟 県	沖 縄 B U	沖 縄 県
長 野 B U	長 野 県	上 田 工 場	長 野 県
静 岡 B U	静 岡 県	東 松 山 工 場	埼 玉 県
中 部 第 1 B U	愛 知 県	宮 城 工 場	宮 城 県

(注) 上記表中「BU」はビジネスユニットを省略記載したものです。

役員

(平成14年10月1日現在)

代表取締役会長	山 崎 達 光
代表取締役社長	山 崎 勝
専務取締役	佐 藤 幸 雄
専務取締役	海 野 祐 造
常務取締役	岡 安 久 治
常務取締役	荻 原 敏 明
常務取締役	佐 藤 哲 也
取締役	城 所 佳 生
取締役	増 野 厚
取締役	矢 野 邦 宏
取締役	前 澤 孝 一
常任監査役(常勤)	問 山 貞 夫
監査役	木 村 喜 助
監査役	國 分 勘 兵 衛
監査役	松 延 洋 平

トピックス

◆ 製品紹介①「フレッシュハーブ」シリーズ ～かくれたナンバーワン製品～

スパイスとハーブのパイオニアである当社は、フレッシュハーブの販売においても業界ナンバーワンシェアを獲得しています。

現在は、スイートバジル、タイム、ルッコラなど25種類を使いやすい分量にして販売しております。ハーブには、風味付けとしての魅力だけではなく、人々を健康にする力が秘められています。ハーブを身近な生野菜などとして食卓に浸透させるために、市場の拡大にさらに注力しています。



◆ 製品紹介②「無菌米飯」シリーズ ～釜めしシリーズに新製品～

この秋、当社の無菌米飯シリーズに新たな製品が加わりました。当シリーズのなかでも「石焼き風ビビンバ」など市場の伸びが顕著である「セット米飯」ジャンルに「松茸釜めし」、「ほたて釜めし」が新登場。また、従来より販売しています「とり五日釜めし」をリフレッシュして計3種類の「釜めし」を品揃えいたしました。

ごはんと釜飯具材トレットがセットされていて、電子レンジで手軽に釜飯をお楽しみいただける当製品を含めまして、お客様の多様なニーズに応えるべく、無菌米飯シリーズのバリエーション展開を行うことで今後もこの市場をリードしていきます。



◆ 自社3工場でISO14001の認証を取得 ～環境問題への取組み～

当社では、地球温暖化防止のための省エネルギー活動や、資源の有効活用のための廃棄物の再利用など、環境問題への取組みを行っております。そのなかで、環境に関する国際標準規格であるISO14001の認証の取得につきまして、2000年8月の上田工場に続き、本年8月に東松山工場、9月に宮城工場が認証され、自社3工場の全てで取得することができました。今後も、環境にやさしい企業を目指すとともに、品質管理や衛生管理を徹底することで、より安全で安心な製品の製造に努めてまいります。

◆ 当社業務紹介 STB139スイートベイジル ～くつろぎと感動に出会う空間～

流行の発信地、東京・六本木の駅から歩いて2分のところに、“くつろぎと感動に出会うことができる空間”が存在します。

「STB139スイートベイジル」

内外のミュージシャンが連夜一流の演奏を披露する中、創作のハーブ料理を心から楽しめる新感覚ライブレストランです。

Sound-ful：ポップス、ジャズ、ソウル、シャンソン、クラシックなど一流のアーティストが登場。特定の分野のみの従来型ライブハウスから大きくレベルアップし、幅広い多くのお客様にお楽しみいただいております。

Taste-ful：生活を潤し、リラックスへと導いてくれるハーブをふんだんに使った、見た目にも楽しいオリジナルハーブメニューを多数ご用意しています。

herB-ful：繊細なハーブの香り溢れる清々しい結婚式等、香り豊かなイベント用スペースとしてご利用いただけます。



STB 139全景

STB139のホームページアドレス <http://stb139.co.jp/>

◆ 1単元の株式数変更 ～1,000株から500株へ～

当社は、株式の流通の活性化及び投資家層の拡大を図るため、本年11月1日に株式の売買単位である1単元の株式数を、1,000株から500株に変更いたしました。

併せまして、株主優待制度につきましても、贈呈対象となる株主様の持株数基準を2003年3月31日現在の株主様より、1,000株から500株に変更いたします。

当社は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第16条第3項の定めに基づき、貸借対照表および損益計算書を同条第2項の公告に代えて当社ホームページに掲載いたしております。

「**SPICE & HERB**」を中心に新製品やメニューレシピなど情報満載の当社のホームページアドレス
<http://www.sbfoods.co.jp/>

スパイスとハーブはS&B

株主メモ

本社所在地	東京都中央区日本橋兜町18番6号
本社事務所所在地	東京都板橋区宮本町38番8号
決算期日	3月31日(年1回)
配当金受領株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定時株主総会	6月中
名義書換代理人	日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店 郵便番号 103-8202 電 話 (03)3668-9211(代表)
同 取 次 所	日本証券代行株式会社 各支店
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
株主優待制度	有
貸借対照表・損益計算書 掲載アドレス (ホームページアドレス)	http://www.sbfoods.co.jp/